



かっ・ぱ・え・び・せん

# 勝・破・笑・美・戦 ～一瞬に全力を～



本日、10月23日、記念すべき第80回体育大会が予定通り、実施できました。早朝より、たくさんの保護者の方や地域のご来賓の皆さまに来ていただいたことを本当にうれしく思います。多くの方に見守られる中で子どもたちは、自身のやるべきことに全力で取り組んでいました。力強い選手宣誓もみんなが本気で頑張ろうという心に火をつけてくれました。

開会式の時に次のような話をしました。「1年生は初めての体育大会、遠慮せずに自分の持てる力を発揮し、そのうえで先輩たちの動きをしっかりと見てほしい。2年生は、いよいよ一つ一つの行事が終わるたびに野田中学校の中心になっていきます。しっかりとバトンを受け継ぎ、さらに成長するきっかけにして欲しいと思います。3年生は中学校生活最後の体育大会となりました。今までも、そしてこれからも何かをするたびに“最後の”という言葉が付いて回ることだと思います。しかし、校長先生は最後の体育大会だから頑張れというつもりはありません。それはなぜか、みんなには〇〇だから頑張るという風に理由がないと頑張れない人にはなっていてほしくないからです。今やらなくてはならないことが目の前にある。だから全力で頑張る。損得抜きに一生懸命、無我夢中にまっすぐに頑張ることができる。そういう人になって欲しいと願っています。今年のスローガンは「勝・破・笑・美・戦 ～一瞬に全力を～」です。かっぱえびせん？ 初めて聞いた時は、ふざけて作ったのかなと正直思いました。しかし、一文字一文字の意味を知った時、いいスローガンだなと思えました。「勝っても負けても笑顔で美しく戦う。美しい戦いで笑顔になる。」そんな意味があります。では、美しく戦うとはどんな戦いでしょうか。体育大会は競技なのでほとんどの種目で勝敗がつきます。勝ったからと言って相手を馬鹿にしたり、負けたからといって相手を批判しても意味がありません。互いに全力を出し合って出た結果を、互いに認め合い、リスペクトしあう。最後はお互いを称えて、笑顔でありがとうと言える戦いが美しい戦いではないでしょうか。どうか今日の体育大会もそういう気持ちと頑張っている人を正しく認める気持ちをもって、一瞬に全力を注いでほしいと思います。」と。そして、皆の思いが一つになって始まった体育大会は、一人一人が召集→入場→競技・演技→退場→応援、そして係の仕事と一つ一つに全力で取り組んでいました。一つ一つの競技は、もちろん、学年種目や縦割り種目も大変見ごたえがありました。

1年生の「台風の日」、4人一組で長い棒を持ち、遠心力に負けないようにコーンを回り、最後は待っている人たちの足元に置き、バトンパスするという種目でした。ほかの人のスピードについていけなくなっている人や遠心力に負けそうになっている人もいましたが、みんな楽しそうに行っていました。2年生の学年種目は「栄光の架け橋」。これは一人の船頭を残りの人たちが次から次へと土台になっていき、その背中を渡っていくというものです。女子からスタートし、男子にリレー、最後は中央の学級旗を掲げてゴールとなります。船頭を落とさないように、自分を投げ出して土台になってくれていました。また、縦割り種目のスウェーデンリレーや3学年合同の綱引き・玉入れ・二人三脚リレーも本当に盛り上がっていました。全般を通じて感動したのは誰もが手を抜いていないこと、そしてその頑張っている人にクラスや学年を超えて暖かい声援を送っていることでした。

閉会式ではそのことに加え、次のようなお話をしました。

「1年生、初めての体育大会。本当によく頑張っていたと思います。様々な学んだこと、感じたことを今後に生かしてほしいと思います。2年生もさすがと思える体育大会でした。先輩たちから感じた思いをしっかりと受け継ぎ、来年、さらに素晴らしいソーランをやってくれと確信します。そして、最後を飾ってくれた3年生の「南中ソーラン」。「構え！」の一言で会場の空気を一変させ、息をのむような雰囲気を作ってくれました。」「ソーランの振り付けは中学生であればちょっと頑張れば必ずできるようになります。隊形も練習すれば覚えることができます。でも踊ることができて形が整ったとしても人は感動しません。では、今日の3年生のソーランに感動したのはなぜか？それは君たちの顔つき、目つきといった表情を見て感動したのです。やり切ってやろう。気持ちを伝えようという本気の思いが顔に、声に現れたときに見ている人たちは感動をするのです。まさにそんなソーランを3年生は演じてくれました。素晴らしかったです。最後になりましたが、保護者の皆さま、地域の皆さま、心からの応援、本当にありがとうございました。これからも子どもたちとともに様々なことに挑戦していきます。今後ともよろしくお願いいたします。」